

供_金長

軍務局

經理局

軍令部

第一班

八五三

大正七年十二月五日

海軍大佐黒瀬清

海軍大佐加藤友三郎殿

一、マール群島暴風雨被害ニ関スル報告

但シヤルト民政署長ヨリ提出ノ分寫

尚ホ本件救恤ニ関シテハ不取敢米壹百石準備ノ上最近便

送附ノ豫定ニ付申添候

別紙壹拾張附

部令第 8.1.23 受接

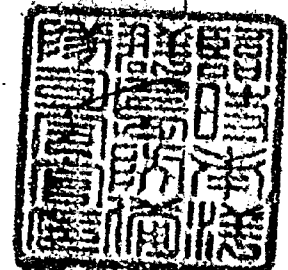
海

軍

官

署

大正七年十二月五日



經理局 8.1.13 軍務局 8.1.8

0048

アル政廳第三〇號

大正七年十一月二十五日

ヤルット民政署長 門屋正信

昨時南洋群島防備隊司令官代理

海軍大佐 黒瀬清一殿

暴風雨被害件

本月八日午前何時頃ヨリ當管區ニ暴風襲来シ追々其速カク
加之益々猛烈トナリ中ニハ海嘯ヲ伴ヒ被害甚サカラス同音頃
ニ至リ漸々平穩ニ歸セリ各方面ノ情報ニ基キ其概況ハ
別紙ノ通ニ有之候
右報告ス

(別紙四葉并寫真六葉添付)

海軍

0049

メジエロ島

本島ニ在リテハ十月八日午前八時頃ヨリ強風吹キ初メ午
後六時頃ヨリ大風トナリタルモノニシテ最初ハ十五時間北
風繼續シ一旦静穏ニ歸スルコト約一時間其ノ後直ニ西
風ニ変シ吹キ續クコト五十二時間ニテ約一時間南風トナリ
更ニ南東ノ風ト變ス此時風力最強ニシテ海嘯トナリタル
モノナリ其ノ被害莫大ニシテ樹木ハ一切吹き倒サレ且ツ吹
折ラレ家屋亦全部倒壊若クハ流失シ或ハ土壤ヲ浚
却シ去リテ今後有用樹ノ栽培シ得サル箇所アリ又島
民ノ所持品ハ殆ント流失シ船舶カノーノ類モ全部消
失又ハ破損シテ了レリ

更ニ詳述セハ本島中ノ「カロリント」称スル字ハ大風ノ集点又ハ

0050

起點トナリ本島ノ南東部「オジヤ」「アジリタケ」及「ライリツ」
方面ハ被害最モ多ク「メジロ」本島及「ロンゴロン」方面之ニ
次キ「ナヤラケ」(南貿分店所在地)及「タイラッパ」ハ比較的被害
少カリシ
人畜ノ被害
風吹キ荒ヒタルトキ村長ハ法螺貝ヲ吹キ警戒ヲ告ケタ
数ノ部下ヲ海邊ノ同箇所ニ集メ殆ント着ノ身着ノ儘
ニテ互ニ抱キ合ヒ体温ヲ取り居リタリシガ倒ルノ樹木及吹
キ荒ル此修羅場ヲ目撃シテ非常ニ恐レヲ抱キ餘
「カイ」舟ヲ内海ニ出テタル者多数アリタルモ波浪高
キヲ以テ沈没シ遂ニ舟ト運命ヲ共ニセル者多ク却テ海
嘯ノ為メ没シタル者鮮シナリシトモ傳フ而シテ倒レタル椰子
樹ノ下敷トナリタルハ僅カニ名ニ過キスト云フ其ノ何レヲ

0051

問ハス目下判明セシ人員ハ死者及行衛不明者ヲ合セ百
二十五名傷者約八十名ニ達シ尙家畜并家禽類ハ約三
分ノ一死亡者ヲハ流失セリト

家屋ノ被害

島民ノ家屋ハ全部大風ノタメ倒壊シ或ハ倒木ノタメ
壓セラレ村長「ジブリック」カイブキノ住宅ハ云フニ及ハス南
興分店、教會堂及前宣教師「ヒール」エスケ、マースノ住宅
モ亦悉ク破壊シテアリ

アイリングラフラブ島

十月九日午後三時頃ヨリ強風吹キ同十日（月曜日）ノ夜
十時頃ニ至リテ止ム
被害

「ジバント」方面ノ家屋全滅シ「バナナ」其他ノ果實類

0052

モ亦全部消失シタルモ人命ニ異状ナシ南貿分店ノボ
ートニ隻破損セリ

コエイレ部諸家屋ハ一軒モ満足ノモノナリ椰子樹約三

百本吹キ倒セタリ

其他諸島ハ被害ナクモ椰子ノ果實ハ大風ノ為メ

全部吹落セタリ

風位 北北西

一ナモ島

當方面ハ無事ニシテ當事「バアンズ、フキルゴ」會社帆船「マ

ウ」號碇泊中ナリシ由

一ウオツダエ島

村長「ナマタ」所有帆船「ヤギゼン、レキゼン」號ハ怒濤ノ為メ

海岸ニ打上ケラレタルヲ以テ被害ヲ受ケ他ニ三隻ノボート

破損シ二人、死亡者一人、負傷者ヲ出セリ

椰子樹ノ倒レルモノ約四十本其、他露兎樹、麵麴樹、被害亦甚カラス椰子果實ノ落下セルモノ夥多ナリシ

ト云フ

一、イレ島

全島ノ家屋殆ント倒壊シ椰子樹ノ被害亦多シ

一、アル島

イレ島ト殆ント大同小異ノ有様ニシテ就中「イネ」及「アル」本島方面最モ被害多キ見込ナリ

一、リキエツノ島

上月廿日大風本島ヲ襲ヒしヨリ先キ風位ハ十日EVE東北東ヨリハ速カヲ以テ吹キ来リ十日午前七時ニ東南東ESEトナリ速カ次第ニ加ハリテ遂ニ南東ニ至リテ止

0054

いタルモノナリ而シテ各島群到ル處ヲ侵シ椰子樹約
20乃至30%ヲ毀損シ立木ニハ果實ヲ失ヒ又若井ヲ
吹き去ラシタルモノ鮮サナラストマス露見樹麵麴樹ノ被害
モ亦多シ加之既ニ製シタルゴブラレノ幾噸カラ後ニ去リ
毎今数ヶ月間ニハ食料欠乏ノ不可止ニ至ル

尚其他諸島中モ被害ヲ受ケタル場所サカラサルヘシト
コトナルモ未タ詳述スルノ報告ヲ得ス故ニ判明次第報告
スヘシ

明後年七月ニ南貿支店所屬汽船第二長門丸便ヲ
利用シ警吏ヲシテ實況調査ノ為メ各島ニ出張セシメ且
ツ應急處置トシテ衣食ノ欠乏ヲ補ハシカ爲メ各高社
及島民等ヨリノ寄贈品ト政廳ノ米若干トヲ送付シ
一時島民ヲ救恤スルコトナセリ

0055

其善後策ニ至リテハ今俄ニ決定スルコト能ハス待タニ異日ヲ
期セントス

茲ニ英船「マウ」號機關長、撮影セル原版ニ依リ南貨
支店長ノ焼付ケタル写真「メジエ」島、今三葉及「リキ」
島、今三葉計六葉ヲ添付シ御參考ニ供ス

(終)

0056

0058



0057

アムギン群島中

リキナ島

大正七年十月十日

大暴風雨被害

実況 其迄

英船少尉
機長撤去

南貿易局長

高津五郎氏

借用焼付

KODAK

CORRESPONDENCE

アムギン群島中

リキナ島

大暴風雨被害

実況 其迄

アムギン

KODAK

ADDRESS ONLY

CORRESPONDENCE



0060

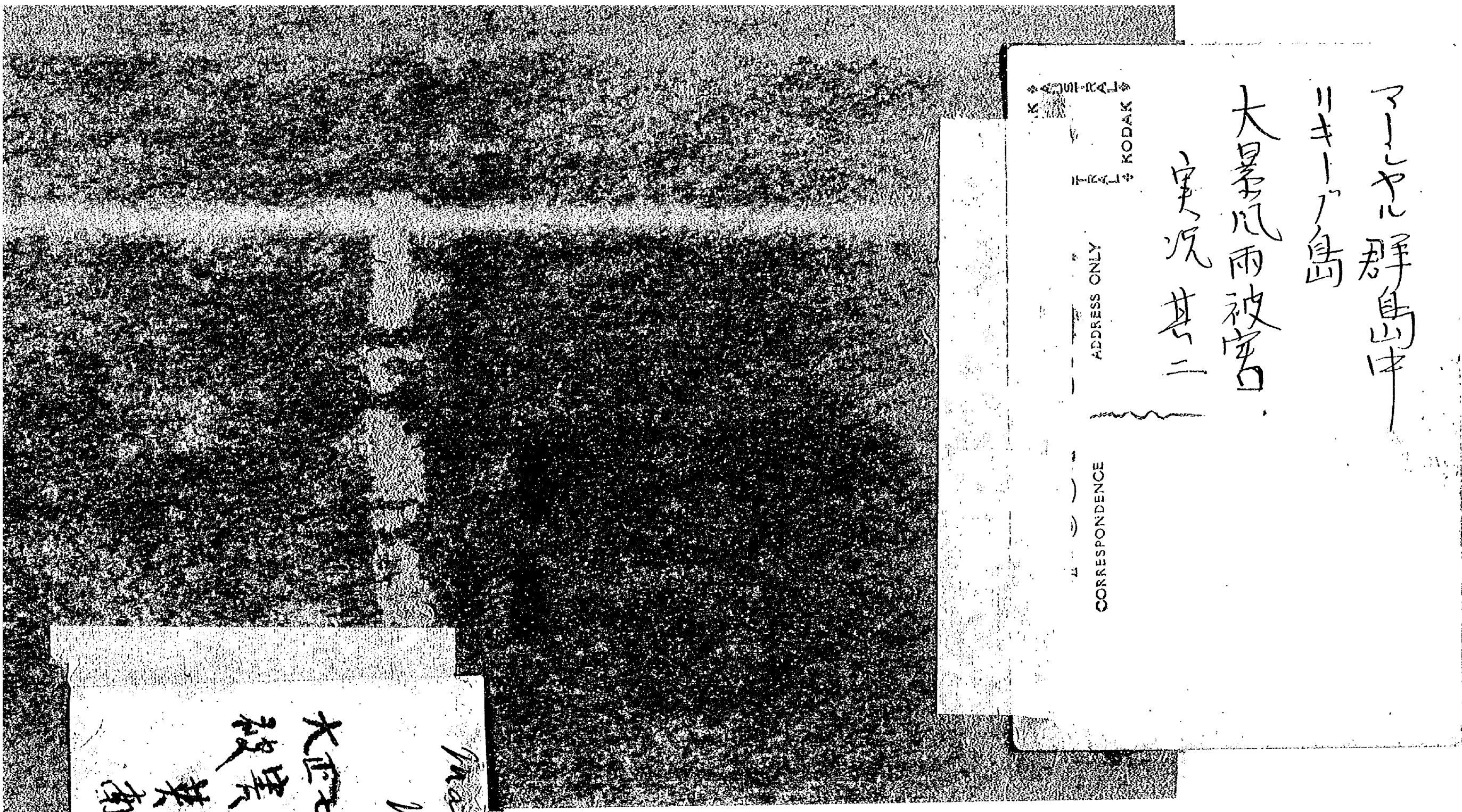
0059



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



◆ 4701-021 ◆
KODAK

ADDRESS ONLY

ADDRESS ONLY

CORRESPONDENCE

マニラ群島中
リキール島

大暴風雨被害
実況 其二

Marshall Island I.
Majuro.
大正七年十月八日-九日 大暴風雨
被害 概況
英領マニラ、リキール島、大暴風雨被害
被害 概況 津波 五郎 氏 撮影



0061

0062



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

Ⅲ.

マニラ島

被害実況 三枚内.

2000

1900

Ⅳ. マニラ群島中マニラ島

大正七年十一月八日—九日

大暴風雨被害実況

英領マニラ領事館長撮影

南支店長高橋源五郎氏焼付

原稿返却.

海軍省

小林

中

横濱

海

軍

一四十六

軍務局

山科

前田

官房

大

共

大正八年一月十八日

大正八年一月十八日

省副官

横濱多摩隊長宛

南洋群島暴風雨被害之圖ニ付

本件ニ関シ臨時南洋群島防備隊参謀長ヨリ當時

上京中ナリシ同隊司令官ニ宛テ別紙第一如ク概況

報告セラル候様

右為左記通牒ハ

送

官房第

二號

0063

8. 1. 18



大正 年 月 日

海 軍

受信者 臨時南洋群島防備隊參謀長
受信者 臨時南洋群島防備隊司令官

電 報 譯

十月八日ヨリ十日迄「ヤルット」管區ニ暴風雨襲來シ地方ニ依リ
天津浪ヲ伴ヒ「マジロ」島ノ如キ死者行衛不明者百二十五名傷
者約八十名ニ達シ食料トスル椰子樹ハ「樹ノ倒壞流出セルモ」
多ク其ノ他「シレードアル」アイリング、ラフラフ、ウハニ、ウオツガエリキ
諸島ニモ大々被害甚カラリシ模様ニ付取敢ス目下民政部
ニ於テ南防汽船第二長門丸ヲ利用シ極力実況調査並ニ救
恤ニ從事中右取敢ス報告ス
十二月四日

参考 ヤルット管區全面積約神奈川縣ノ三分ノ一
全人口約壹万被害民約五千見込

0064

大正八年一月三十日起案

起案者 捺印

前田

二月一日

日發付

發付掛 捺印

案者捺印

發付後起

軍務局長

第一課長

山根

副官

枝原

局員

前田

堀

大

官

參事官

人事局長

第一課長

永壁

第二課長

書

印

事務局長

電報(暗號)

二月一日 午二時五分發電濟

大正八年二月一日 次官

官房第三一番電報 臨南防司令官

救恤御下賜金慶分ニ関スル貴電了承右ハ大体ニ於テ
同意ナルモ御下賜金ハ主トシテ罹災島民ノ急ヲ救フ方針

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
												官房	二月二日	受月日 發月日
												31		

0065

トシテ處理セラルル様致度從テ模範椰子林經營及聖恩
碑建設ハ御下賜金ニ據ラサルヲ可ナリト思考ス

(18)

明治印刷

0066

一 柳子園内ニ聖恩ノ建

一六

柳子園内ニ聖恩ノ建
軍務局
第一課
山形
國
前田
吉岡

明治四十四年

模範	島	分	局	局	軍
衣	ニ	ニ	著	發	務
三			司令官		

8.1.22

0068 0067 8.1.20

人事局

軍務局

一六

大正八年一月十八

日 午後 時 分
午後六時、分海軍一局著



受信者 海軍次官
臨時南洋群島防備隊司令官

暗號 電報譯

マルシャル群島罹災者救恤部下賜金處分ニ

関シテ通 劃定ス

聖旨 奉戴シ司令官親シクマルー卜島ニ

赴キ之ヲ傳達ス

一 聖徳太子親王御遺徳ニ紀念スル為罹災各島ニ模範

椰子林栽植ニシテ之ヲ島民共有ニシテ衣

食資ニ充テシム

一 椰子園内ニ聖恩ノ建ツ

軍



0068

0067

8.1.20

一應急救濟方法トシテ罹災民一般ニ施米シ
老幼病傷ニ巾衣藥餌ヲ給ス
一各民政署長ニ訓令シ聖旨仁慈皇獻（不用）
遍ナルコトヲ群島一般ニ周知セシメ將來倍々
皇化霑沐シテ恪遵奉公ノ誠ヲ致サスベク
努ム

(了)

軍務局
電報着信紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	受午前	付午後	第	官報	カ シ ノ シ
		後	前	後	三 二	局	
		月		時		日	
		分		分		字	
返電ヲ乞フ 御下賜金ノ用ニ付 了 一月廿八日 臨時南洋群島防備隊司令部							
定 指						事 記	
番號		紙數		第		名氏所居人信發	
二二		二		二		カ シ ノ シ	
印附日信着		28		日		カ シ ノ シ	

0070

海軍

勝利校長第一二部

大正八年二月二十六日

勝利指揮官前川直平

臨時南洋群島防備隊司令部兼司令部

累月被害調査報告書

一、臨時防備隊第一七五部被害調査報告書

左掲出久

（印）

0071



五

臨南防第五一號

大正八年三月廿八日

第一課
第二課

海軍大臣加藤友三郎殿

臨時南洋群島防備隊司令官永田恭次

マーシャル群島暴風雨被害ニ関スル件

一 勝利指揮官提出大正七年十一月マーシャル群島

暴風雨被害調査報告及ヤルト民政署長

提出暴風雨被害實況並當面救恤ニ對ス

ル意見

各壹通

二 大正七年十一月マーシャル群島暴風雨被害

ニ對スル善後策

壹通

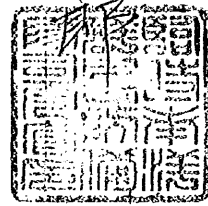
三 御聖旨傳達此書並罹災者救恤御下



0073

0072

永田泰次



前田

12件

マージナル群島

ト民政署長

面救恤ニ對ス

壹通

凶暴風雨被害

壹通

人者救恤御下

四月十日
午前十一時

0072

0073

御救恤金ノ分配ノ標準等官中
報告スルノ例ナルヲ旨内務ノ問合セ
タリ所其當時忠記執務方依頼
外陛下賜金ノ仕末等報告ニ及
ビタルトナシトナリ

前田

軍務局



五

臨南防第五一號

大正八年三月廿八日

海軍大臣加藤友三

第一課
第二課

マーシャル群島暴

一 勝利指揮官提出大正

暴風雨被害調査報

提出暴風雨被害

ル意見

二 大正七年十一月マーシャル群島暴風雨被害

ニ對スル善後策

壹通

三 御聖旨傳達覽書並罹災者救恤御下



四月十日

0074

0072

賜金分配標準
右進達ス

各
壹
通

(終)

0075

大正七年十一月ヨシヤル群島暴風被害調査報告

マジョロ島（附圖第一）

一、暴風經過 十一月八日夜半ヨリ北東風ノ力増加シ雪伴
七九日午前八時頃其勢力最モ強ク猛威ヲ逞ウシ樹木ヲ倒折
シ家屋ヲ吹倒シ礁内ノ怒濤ハ内濱ニ打上テ道路ノ内側侵入
スルコト屢ニシテ其光景轉々凄然タリ正午ニ近ク風一時中絶
セシモ俄然南西風反吹候ニシテ其風力増加シ疾強北東風ニ譲ヌ
之カ為メ外海ノ波濤膨脹増大シ字メジロヲ除ク外全島ヲ
侵襲シ内海ニ打込ミ人畜樹木土砂ヲ流去シ外濱ニ礁塊ヲ打
上テ狂暴其極點ニ達シ慘憺ノ光景言語ニ絶ス斯クテ午後五時
頃ヨリ風濤漸ク衰ヘ夜ニ入リ沈靜ニ歸シ始メテ藻生ノ念ヲ

0076

ナセリト云フ 島民ハ初メ林中倒木ノ危険ヲ慮リ内濱ニ集リ
倒木ノ蔭立木ノ風下ヌハ床下一道庇シ怒濤ノ侵襲スル樹
木ヌハ索具ニ縋リ繞ニ身ヲ以テ脱カルコト屢次テ南西風
發吹シ外海ヨリ海嘯ニ襲ハルヤ刺舟ニ搭乗シ環礁北方
諸島ニ逃レント企テタル者ハ多ク狂瀾ノ為メニ覆沈シテ行衛
不明トナリ當時實見者ノ話ニ海嘯浪ノ高サ十數尺ノ
モノ前後七回來襲セリト云フ

二、人畜ノ損傷 死者三十五名行衛不明者九十名ニシテ其
多クハ刺舟ニテ北島ニ遁レント企テシモノナリト云フ^章輕傷者五
十名 家畜ハ大部分流失失跡ス

三、家屋家財及ヒ船舶ノ損害 全島中^ノシヤリツトノ南貨倉店
建物三棟及ヒ^ハライラツト^ノ村長住宅一棟ヲ殘ス外家屋全部倒壊
若ハ流失セリ其重ナル建築物ハ^ハカマシ^ニ在ル米園傳道

0077

會社所屬家屋二棟舊「バル」會社建物「エガチ」三棟三
本島一三棟「コジロ」本島南貨分店二棟南樂店棟村長住宅
二棟教會堂一棟等ニシテ總數七百餘ナリ

家財ハ海嘯ノ侵襲ヲ受ケル處ハ勿論字「マシユロ」ニ於テモ過
半流失セリ

南興所有帆船「カカ」號ハ海中ニ埋没シ村長「ジブリク」所有帆船
「トネダ」號ハ海濱ニ打上ケラレテ破壊ス村長「カイブ」所有帆船
「エイデア」號ハ陸上ニ修理中ノ處轉倒セル椰子樹ノ為メ破壊セシ
テ兩船ハ既ニ修理ノ上使用スルニ至リ南貨所有帆船「エヌ」號ハ
投錨ノ儘覆没セシテ後引上ケラレタリ島民所有割舟ハ
五十二基他七十回ハ流失若クハ難破ニテ使用不可能ナリ

且有甲樹木ノ損害 本島ハ相前後シテ表裏兩面ヨリ
暴風ニ夾襲セラレ東方大部分ハ海嘯ノ侵蝕スル所トナリ

0078

タルヲ以テ椰子樹類樹ハ殆ト全滅シ後埔地方ニ於テハ
 倒折樹木ハ悉ク流失セリ字メシヨニ於テハ島幅比較的大
 為南岸樹林内ニハ打上ケレタ礁塊礫々堆積シ内部ハ倒
 折樹木參差交錯足ヲ入ル地ナキ状態ニモ地味ハ耕種適
 露地樹ノ存立スル比較的多ク見ル又椰子樹ノ單ニ枝葉ヲ
 折損セラレタルモノハ既ニ嫩芽ヲ發生セルモノアリ
 生活ノ現状 目下島民ハ假小屋ニ住ミ相繼フ移居ヲ着目シ補給
 上陸時ノ食糧ハ糯米ヲ主トシ落コブヲ以テ今ヤ梅ニ盡サレトモ保存食糧
 贈食品及魚類ヲ混食シテ漸ヤク口ヲ糊シ芋類ノ耕種 椰子苗ノ植付
 荒地整理ニ從事セルニ空腹ヲ訴ルモノ多シト云フ又島内ニ現有タル
 鋸斧等農具甚タ少数ナルカ為テ事業意ノ如ク進捗セスト云フ

0080 0079

ニ就テ見ルニ麵麴樹ハ全滅シ椰子實ハ大部分墜落シ其ノ
倒折セルモノ三四割ニ上リシ其他ノ離島ニ於テモ大同小異ナリト
云フ之等ハ現在ノ住民ニ對シテハ自活ニ差支ナキモノ如シ

七、所見

本島ハ大風中ニ進路ニ近ク位置セシヲ以テ風威

最モ強猛相前後シテ腹背ヨリ夾襲セラレ加之海嘯ノ侵襲
ヲ受ケテ遂ニ多数ノ人命ヲ失ヒ殆ント滅亡ニ近キ慘害ヲ蒙リ
タルハ誠ニ憐憫ニ堪ヘサル所トス之カ救済ニ関シテハ既ニ
「ヤルト」政廳ニ陳於テ採ル手段即ケ糊口減少ノ為近親
諸島村長ノ義心ニ賴リ被害民ノ移住並ニ速ニ自活ノ道ヲ
復舊スル為芋類ノ耕作海産物ノ採取勵行等ノ外別ニ
手飯ナシト雖モ之カ實行並ニ其方法ニ就テハ未聞ノ島民任セ
ニテハ豫期ノ效果ヲ擧グル事甚ク困難ナント思考セラルハ
照アルハ差當リ移住督促及ヒ耕地整理並ニ耕作等ノ

指導監督トシテ官吏二名ノ派遣ヲ急務ト認ム

既ニ椰子苗ノ植付ハ大ニ進捗セル模様ナモ此際灌漑ヲ誠ノ
適當ノ間隔ヲ以テ理想的椰子林ヲ創設スル最好時機ナ
レハ併セテ指導監督ヲ必要トス

以上方法ヲ以テモハ時日ノ經過ト共ニ島狀復舊ノ根柢成リ數月後
大島民自治ノ道ヲ得セル尙椰子結實スデ今後數年間島民ハ
何等收入ノ途ナキヲ以テ被服及ヒ耕作植林ノ諸要具等必需品ノ
補助ヲ必要ナリト認ム

因下島民ノ出稼ハ賃金及彼等ノ心理上實行甚々困難ナル
模様ナモ寧ニ前項ノ見地ヨリスレハ此際斷然半ハ強制的ニ
出稼セシメ島民ノ收入ヲ計ルモ亦一策ナリト認メラル 若シ夫レ椰子
材利用ノ途ヲ鑄シ之ヲ内地ニ輸送シテ相當利益ヲ得ル見込
ヲ有セル企業家ヲ大島内ニ必要ノ部分ヲ除キ幾萬本ニ上ル

倒折椰子材ヲ之ニ拂下クレハ從テ勞働ノ供給トナリ東ア島ノ救益
トシ得テ此際一舉兩得ノ妙策ト一顧ノ價值トセザン

ミレ本島

一、暴風ノ經過

前日來ノ偏東風ハ十月八日午前八時少休ノ後
午後再ヒ發吹シ時ト共ニ風力ヲ加ヘ日没頃一時風止ミ晴天ヲ
見シモ間モナリ俄ニ西風起リ其力疾強午後八時頃其絶頂ニ
達ス此時家屋樹木ノ倒壊スルモ最モ多シ之ヨリ風雨次第
ニ衰ヘ九月正午沈靜ニ歸ス

二、人畜ノ損傷

島民一名椰子樹下敷トナリ負傷セルニ

三、家屋家財及船舶ノ損害

市價分府ヲ初メ島民ノ家屋全部
倒壊ス南貨所有此島一艘島民ノ刺舟二三隻難破セリ
本島ノ海嘯ノ侵蝕方々為家財ノ流失多キカ如シ

四、有用樹木ノ損害 椰子實ハ大部分墜落シ其倒折セルモノ
 約三割 類類樹ハ大部分倒折セルモノ枝葉ヲ折損セラ
 レタル儘存立シ既ニ嫩芽ヲ發生セルモノ多キヲ見ル 露光樹
 ノ被害ハ約五割トシ
 五、生活ノ現状 目下倣家屋ニ住シ食料トシテハ落コノモノ
 ノ實魚類ヲ採用ス 本島ノコブラレテ食ヒ盡セハ離島ヨリ
 之ヲ得ル途アリ 且ツ地味芋ノ耕作ニ適スレハ今後生活ニ
 困難ナルカ如キコトナカシ又島民ハ多少蓄財アルハ供給ノ
 途ヲ得ハ當分食料購買力ヲ有スト云フ
 離島ノ交通ニハ殘存ノ船舶ヲ用ヒ差支ナシ
 六、所見 類類樹ハ一十年以内ニ結實シ又椰子樹ハ二三
 年ノ後收穫復舊ノ見込アリト云ハハ島狀回復ハ今後二
 三年ヲ要ス(是其間衣食ニ窮ナルカ如キコトナカシ)シト認ム

0084

七、本環礁中被害本島ト略同程度ノモノハ「アル」ニシテ「パール」島
之ニ次ク其他ハ風位ノ關係上被害輕少ナリトモ

「アル」環礁内「イネ」島

ハ、暴風ノ經過

十一月八日夜「北東風」次第ニ強ク猛雨ヲ降ル

正子頃ヨリ九日午前三時頃「モ」其力最モ強ク此際多ク樹木

ヲ挫折シ家屋ヲ倒壊ス之レヨリ風向右轉シテ同日早朝迄

南西風ニ變スルト共ニ風力狂暴外海ノ波濤増大シ「イネ」

西半部及ヒ其西隣ニ島ヲ侵襲シ樹木ヲ轉覆シ低部ノ土砂

ヲ流去シ礁塊ヲ打上ケ先景慘怛ヲ極ム此時島民ハ同島

東方高地ニ避難ス斯クテ夜ニ入り風濤衰ヘ十日午前沈靜ニ歸ス

ハ、人畜ノ損傷

死傷者モ家畜約三分一ニ失墜ス

ハ、家屋家財及ヒ船舶ノ損害

宣教師住宅南側倉庫ノ外

0085

殆ント全倒壊シ家具家財ノ流失セルモノ多シ
南貨所有帆船「グレイ」ハ號ハ七日「イネ」島西岸ニ漂着セシカ
九日同島中興ニ打上ケテ船体破損大島民ノ「割舟」ハ一部
破損セシメ「ト」モ修理ノ上使用シ得ル程なり

四、有用樹木ノ損害及生活ノ現状等 其程度状況「ミ」ト伯仲
ノ間ニ在リ而シテ被害「イネ」ニ次クモ「ハ」アルニ本島及「イネ」
兩島間ノ諸島ニシテ其他諸島ハ損害輕少ナリト云フ

「リキエブ」島

一、暴風ノ經過 十一月十日ヨリ強吹セル東北東風ハ十一日午前七時
ニ至リ東南東ニ変向シ午前十一時ニ至ル間其風力最モ疾強樹
木ヲ折倒シ家屋ヲ倒壊シ狂暴ヲ極ム刹ハ外海ノ怒濤膨大狂奔
シテ島上ヲ侵シ内海ニ打込ムニ至ル此時島民ハ樹木又ハ之ニ結止

0086

セル索繩ニ懸リテ纜ニ負テ以テ免レタリト云フ 斯クテ正午風向
南東ニ變シテヨリ風濤漸衰シ夜ニ入リ沈靜ニ歸ス 外海岸ハ
椰子樹ニ列ノ幅員怒濤ノ爲メ全ク土砂植物ヲ浚却セラレ
林中亦礁塊碌々當時ノ光景ヲ想ハシムモアリ

二、人畜ノ損傷 七

三、家屋家財及ヒ船舶ノ損害 「キヤベレ」グループ面名住宅ノ外

南留分店ヲ始メ島民家屋ノ大半ハ倒壊ス船舶ノ流失難破
セシモノナシ

四、有用樹木ノ損害及ヒ石ノ現状等 其程度及状況「ミレアル」

ト伯中ノ間ニ在リ

然レモ本環礁ハ各島共相當ノ被害アルヲ以テ全島ヲ通シ
椰子樹ノ損害約ニ割ニ上ルヘシ

五、所見 本島ノ所有者「キヤベレ」グループ就中「グループ」ハ

0087

相當教育アリテオ、識思慮アルモノシテカフルニ蓄財アリトノ事
ナレハ今後生産回復ヲテ島民（即チ彼等ノ傭人トモ見做スベ
モノ）ヲ扶養シ得テ生活ニ差支ナキト推測セラル

其他ノ諸島

「アウル」コロラツゾ「ウオツガユ」「アイルグ」皆同一暴風ノ見舞
フ處トナレトモ二三島民家屋ノ破損椰子樹十数本乃至数十
本折損セシ止リ何レモ被害輕微ニシテ前述諸島ト比スヘクアラス
メシット「アウトリグ」ハ風波ニ妨ケテ寄島セサリモ被害程度「ア
イルグ」ヨリモ輕微ナリト云フ

「フリック」列島地方ニ於テ同一暴風ヲ感シタルモ「ラタグ」列島
ニ比シ其勢力弱ク隨ツテ殆ト暴風被害トシテ認ムヘキモノナレ
只「ガヤバット」及「アイレ」が「ラフロ」北隅「ゲユ」島ニ於テ島

民家屋過半倒壊シ椰子實多少墜落セルヲ最大ナリトスルモ
既ニ家屋ハ復舊セラレ各自治シ得ル状態在レハ言フニ足ラス
意見

一、這次本群島ヲ襲ヒタル颶風ハ一九〇五年以來最モ強烈ナリシ
モノニシテ其被害ノ跡ヲ就テ見ルモ前者ニ劣ラサル稀有モノニ
屬ス。今回巡視ノ際各地ニ於テ聞キ得タル談クニヨリ推定
スルニ其中心ハ略附圖第二ニ示ス如キ進路ヲ執リタルモノ
ノ如シ又氣壓ニ関テハ「リキエブル」ニ於テ十一月午前十時頃（最
盛期）ニ八時ハナリト云フ外資料ナシ

二、暴風被害ノ最大ナルモノ「メジコロ」ニシテ目下救助ヲ要スルミナ
ス島狀復舊ノ爲メ今後尙引續キ補助ヲ要スルコト前述
如シ

ミレ「アルノ」リキエブルハ略同一程度ニシテ前者ニ比スレハ格段

0089

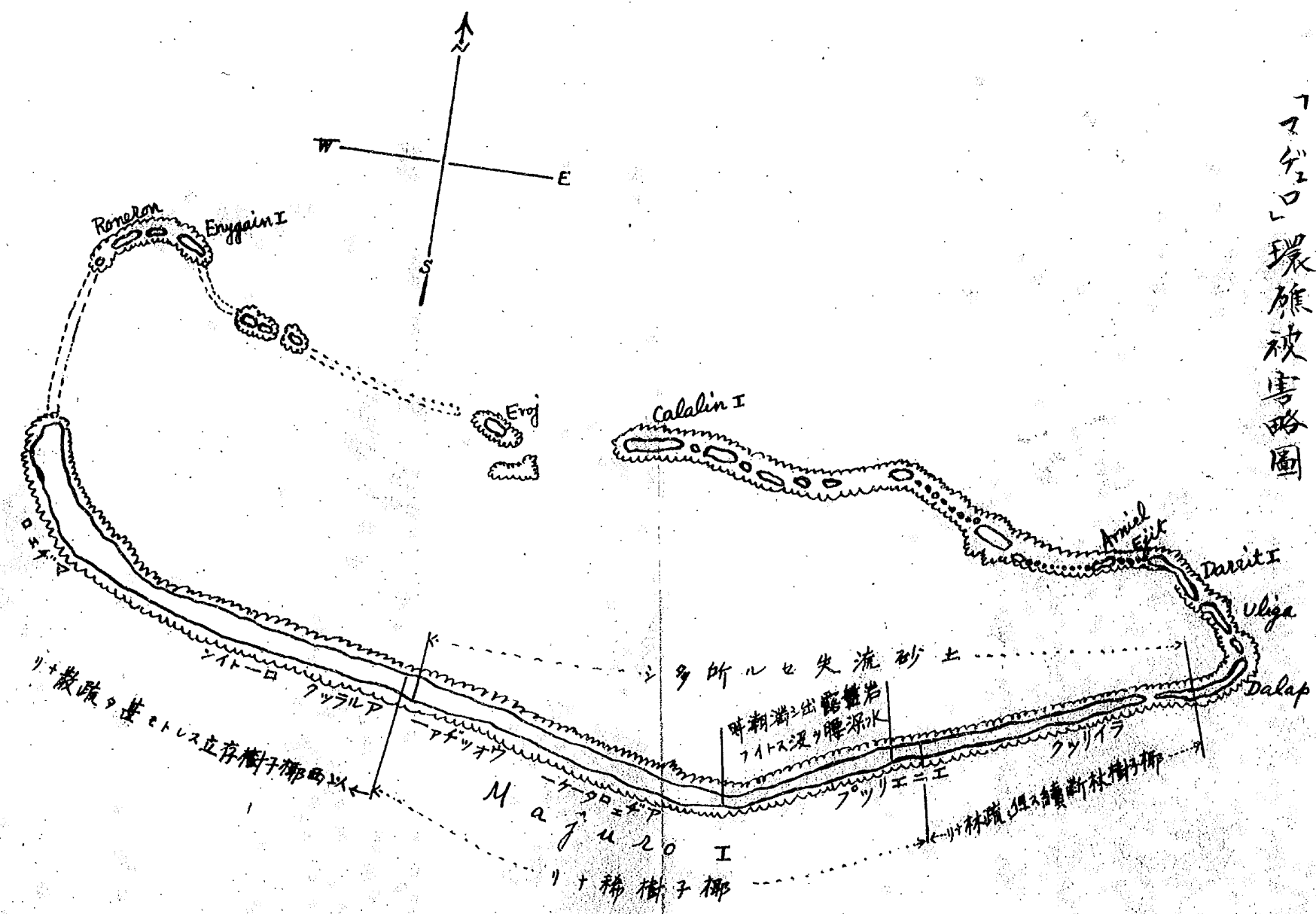
ノ差異アルモ其ニ島狀復舊ノ爲メ今後二三年ヲ要スル被害
アリタルモノナレバ此際賑恤スルヲ至當トスヘク其他諸島ニ在リ
テハ救助賑恤ノ必要ナシト認ム(附圖第三)

三、今回暴風被害地方ニ於テ最モ痛切ニ感シタルハ備荒食料
植物ノ欠陥ニシテ今ヤ何レモ芋類ノ耕作海産物ノ捕食ヲ奨励
シテ之カ應急補給ノ道ヲ講セリ米關ノ島民トシテハ平生
椰子樹ニ依賴シテ何等他ニ考慮ヲ拂ハサレハ必ムヘキコトナリ
ルモ今回ノ事例ニ鑑ミ爾今島民ヲシテ芋「マゴモク」ノ耕作魚貝
ノ捕食ニ慣レシムルヲ最モ必要ナリトス斯クシテ徐クニ島民ノ
天惠ニ従食スルノ情風ヲ矯正シ勞作ノ良習ヲ養ヒ秋益ヲ
増スニ從ツテ家屋ノ改造衛生的設備等幾多生活ノ向
上ヲ促進シ勞作厚生ノ福利ヲ感得セシムル如ク指導開發ス
ヲ急務ト認ム

(終)

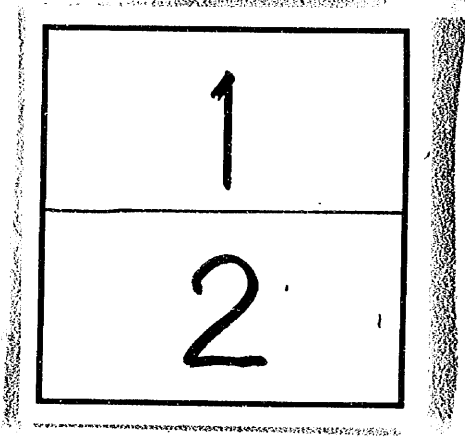
0030

附圖第一
「マダロ」環礁被害略圖



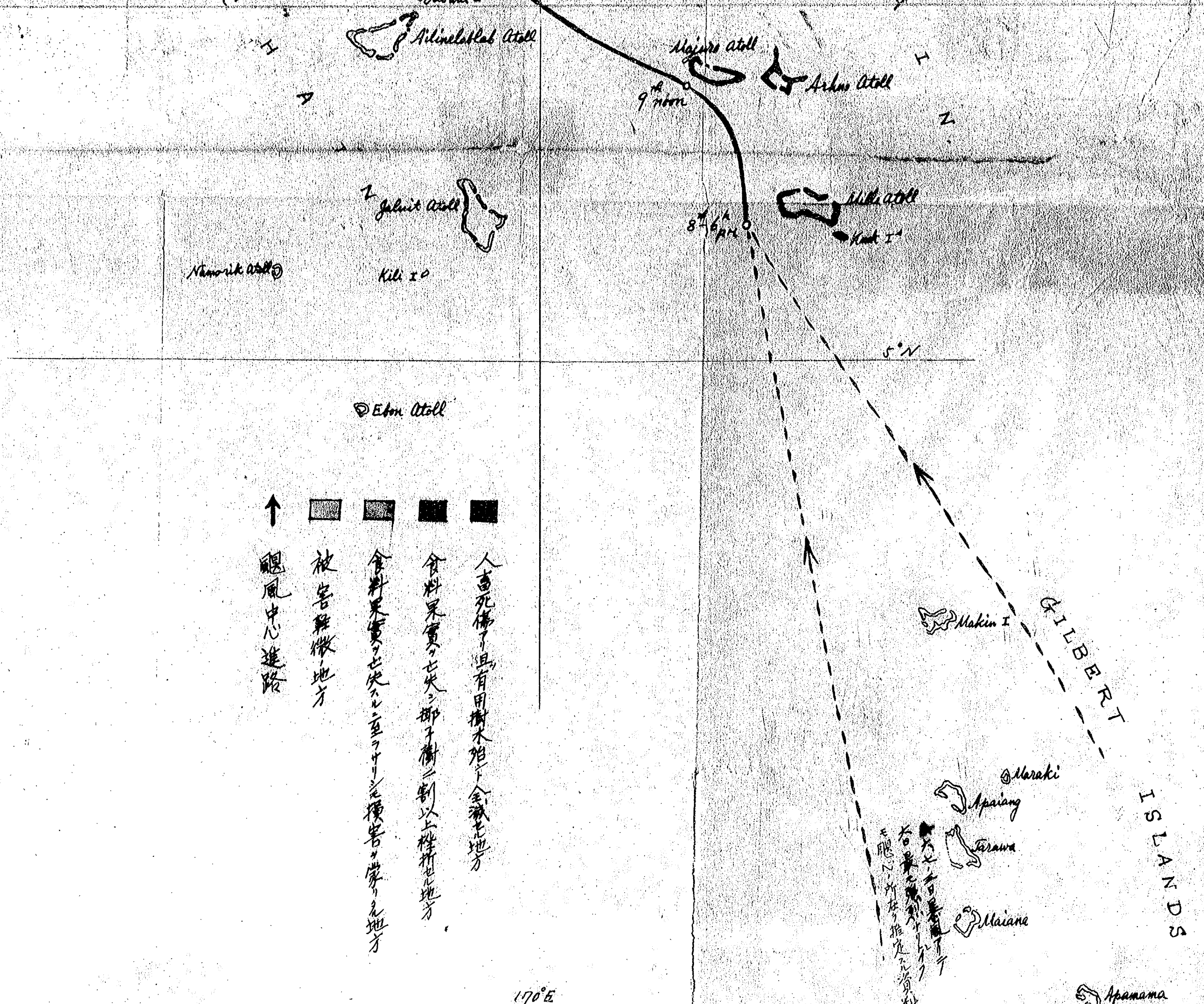
0091

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0093





- ↑
颶風中心進路
- 被害軽微地方
 - 食料果實等失火ニ至ラリシニ被害ヲ蒙リタル地方
 - 食料果實等失火ニ至ラリシニ被害ヲ蒙リタル地方
 - 食料果實等失火ニ至ラリシニ被害ヲ蒙リタル地方
 - 人畜死傷アリ且有用樹木殆ト全滅セル地方

大正十三年九月
本島を襲撃した台風
の中心は、この島を
通過したと推定され
る。